

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
 - ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
 - ・ 文中の「n」は、「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
 - ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。
- 例：問7で「興味・関心があり、定期的に競技を行っている」と「興味・関心があり、セーリングの体験や見学、競技観戦をしたことがある」と「どちらかといえば興味・関心がある」を合わせたものを《興味・関心がある》と表現している。
- また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

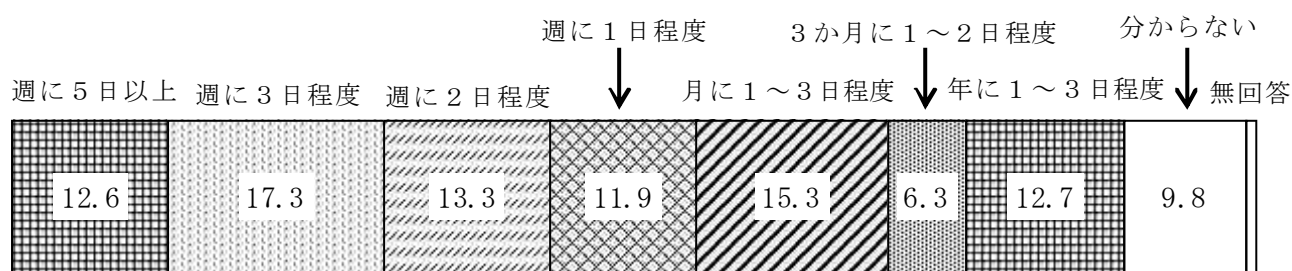
1 スポーツ（問1～問6）

県では、神奈川県スポーツ推進条例に基づき、神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」を策定し、様々なスポーツ施策に取り組んでいます。今回、1年間のスポーツ実施日数などについて調査しました。

▼ 1年間のスポーツ実施日数（問2）

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度」が17.3%で最も多く、次いで「月に1～3日程度」が15.3%であった。[図表1]

図表1 1年間のスポーツ実施日数（n=1,409）（%）



0.9

2 セーリングの普及（問7～問8）

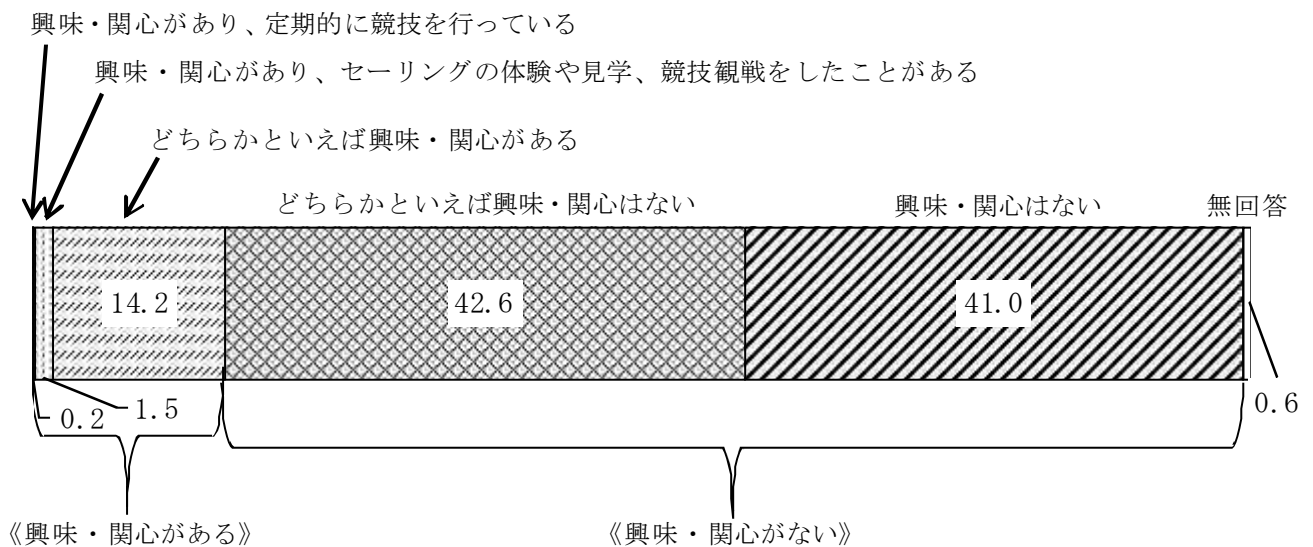
県では、東京 2020 オリンピック・セーリング競技の会場所在自治体として、セーリングの普及を推進しています。今回、東京 2020 オリンピック・セーリング競技開催後のセーリング競技への興味・関心について調査しました。

▼セーリング競技への興味・関心（問7）

セーリング競技に興味・関心があるか尋ねたところ、「興味・関心があり、定期的に競技を行っている」（0.2%）と「興味・関心があり、セーリングの体験や見学、競技観戦をしたことがある」（1.5%）、「どちらかといえば興味・関心がある」（14.2%）を合わせた《興味・関心がある》が 15.9%であった。

一方、「興味・関心はない」（41.0%）と「どちらかといえば興味・関心はない」（42.6%）を合わせた《興味・関心はない》が 83.5%であった。[図表 2]

図表 2 セーリング競技への興味・関心（n=1,409）（%）



3 ねんりんピックかながわ 2022（問 9～問 11）

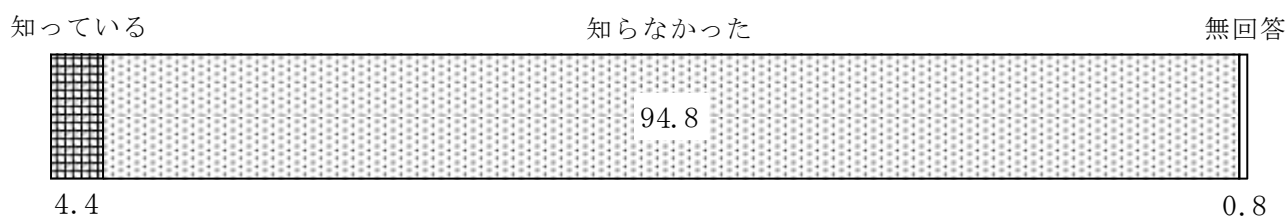
県では、未病改善で笑顔あふれる人生 100 歳時代を目指し、高齢者をはじめ、誰もがスポーツや文化活動を楽しめるねんりんピックかながわを、2022 年に神奈川県内で初めて開催するため、準備を進めています。今回、ねんりんピックかながわの開催の認知度などについて調査しました。

▼ねんりんピックかながわの開催の認知度（問 9）

ねんりんピックかながわが開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が 4.4%であった。

一方、「知らなかった」が 94.8%であった。[図表 3]

図表 3 ねんりんピックかながわの開催の認知度（n=1,409）（%）



4 「未病改善」の取組み（問 12～問 15）

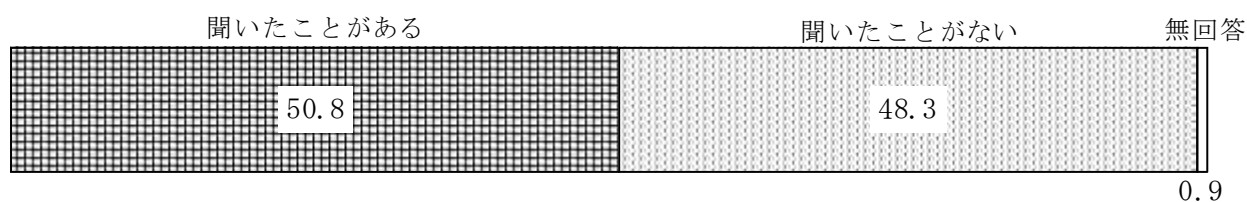
「未病」とは、健康と病気を 2 つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。今回、「未病（ME-BYO）」の認知度などについて調査しました。

▼「未病（ME-BYO）」の認知度（問 12）

「未病（ME-BYO）」という言葉聞いたことがあるか尋ねたところ、「聞いたことがある」が 50.8%であった。

一方、「聞いたことがない」が 48.3%であった。[図表 4]

図表 4 「未病（ME-BYO）」の認知度（n=1,409）（%）



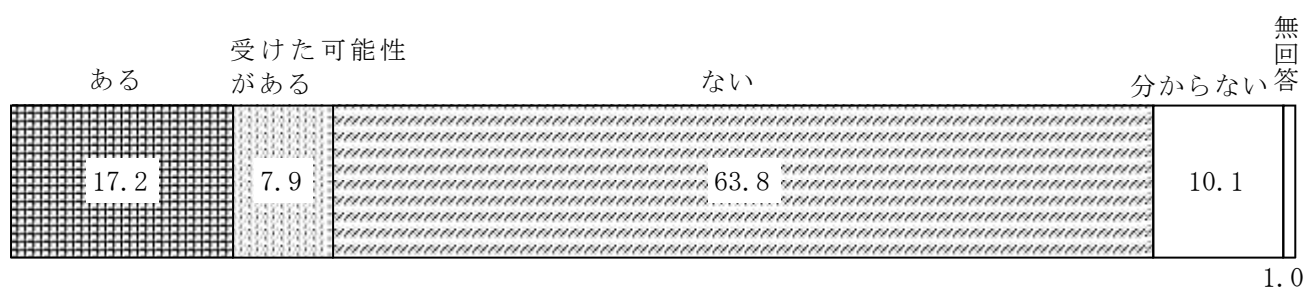
5 肝炎対策（問 16～問 17-1）

県では、神奈川県肝炎対策推進計画を策定し、肝炎治療医療費の助成など、様々な対策に取り組んでいます。今回、「肝炎ウイルス検査」の受検状況などについて調査しました。

▼「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問 17）

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が 17.2%であった。一方、「ない」が 63.8%であった。〔図表 5〕

図表 5 「肝炎ウイルス検査」の受検状況（n=1,409）（%）



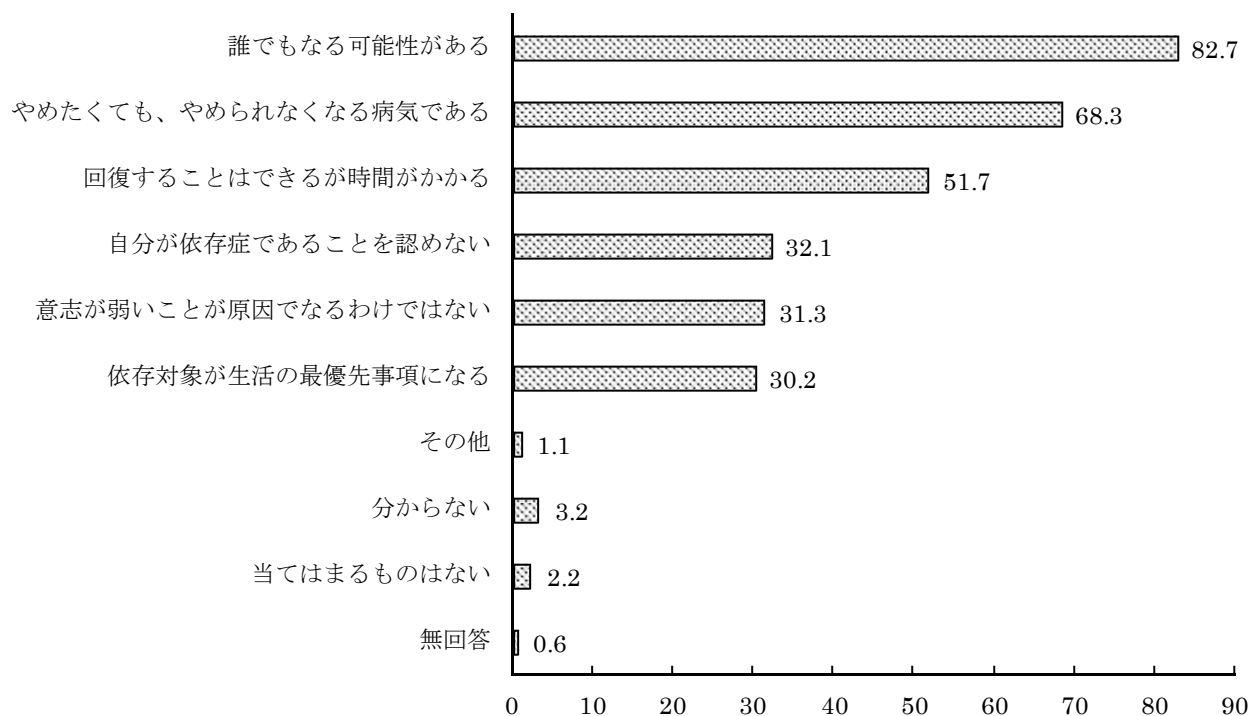
6 依存症に対する意識（問 18～問 21）

県では、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症治療や回復支援及び相談体制の強化、普及啓発、医療連携体制の構築を図り、依存症対策を総合的に推進しています。今回、依存症に対する意識に関する認知状況などについて調査しました。

▼依存症に対する意識に関する認知状況（問 18）

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が 82.7%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が 68.3%であった。[図表 6]

図表 6 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）（n=1,409）（%）



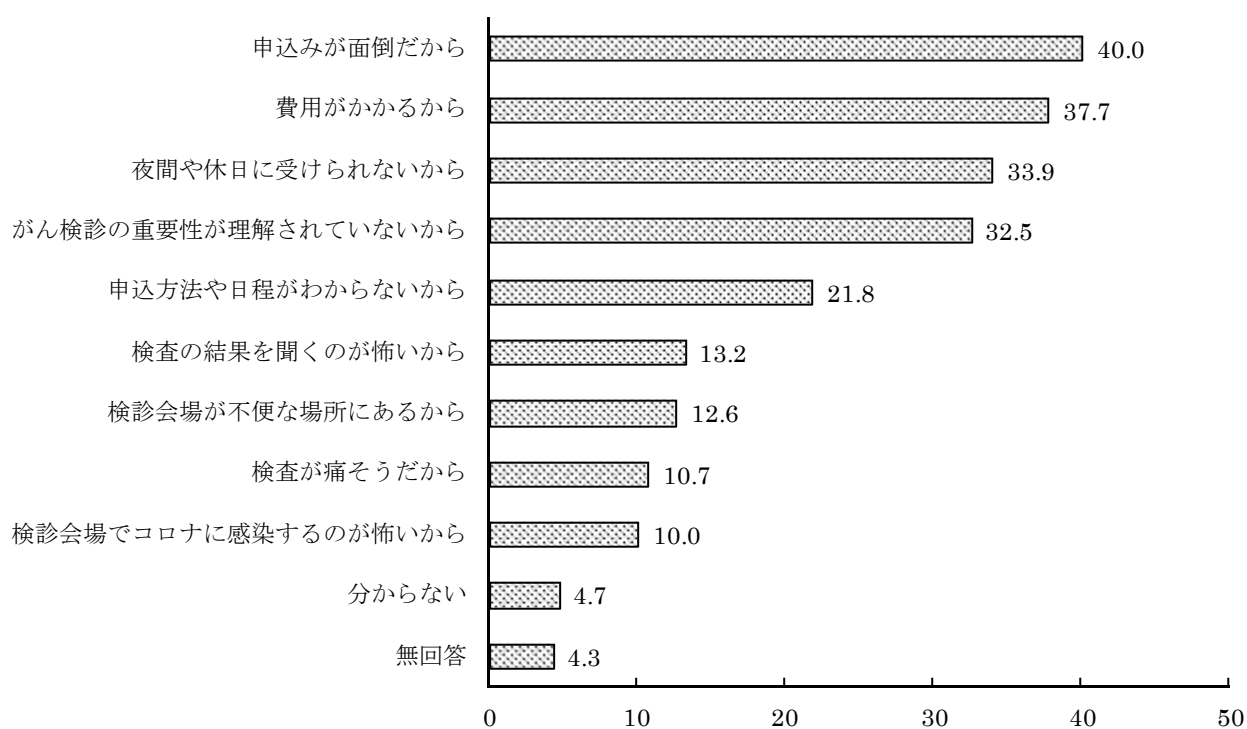
7 がん対策（問 22～問 23）

県では、昭和 53 年から死因の第 1 位になっている「がん」で亡くなる人を減らすために、がんの早期発見、早期治療につながるがん検診の受診率向上に取り組んでいます。今回、「がん検診受診」への意識について調査しました。

▼「がん検診受診」への意識（問 23）

がん検診を受ける人が少ない理由について複数回答（3 つまで選択可）で尋ねたところ、「申込みが面倒だから」が 40.0%で最も多く、次いで「費用がかかるから」が 37.7%であった。〔図表 7〕

図表 7 「がん検診受診」への意識（複数回答）（n=1,409）（%）



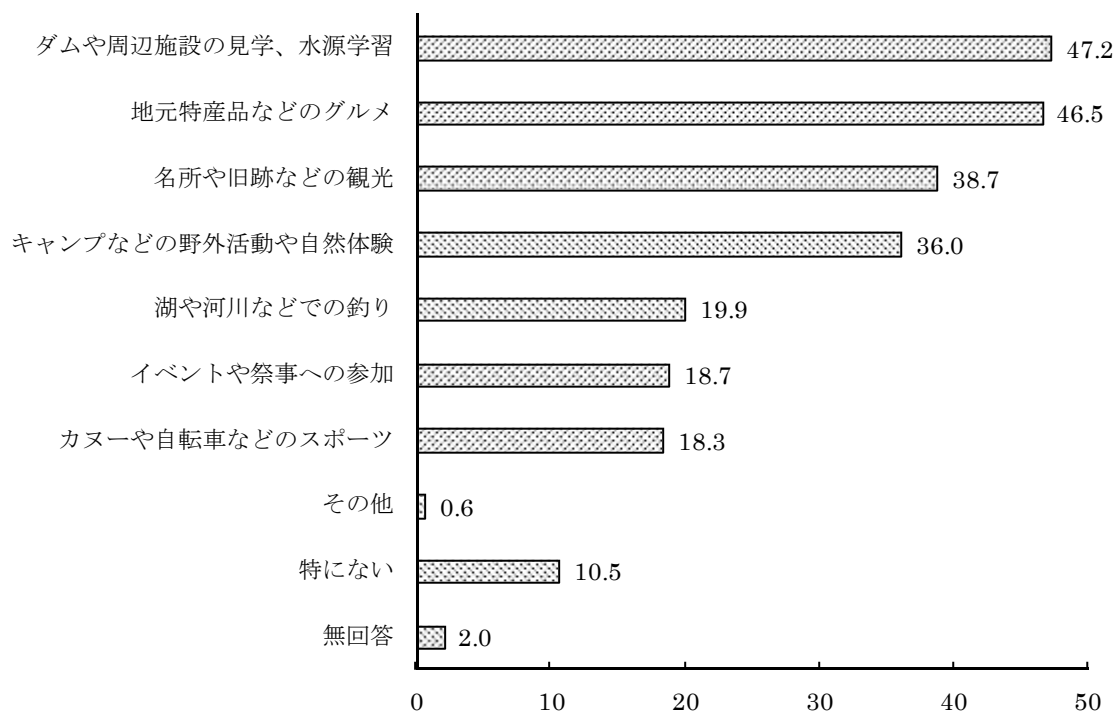
8 かながわの水源地域（問 24～問 26）

県では、豊かな水を育む水源地域を取り巻く環境を良好な状態で維持していくため、交流を通じた水源地域の活性化に取り組んでいます。今回、水源地域にあるダム湖（ダム）に行く場合、体験したいと思うものなどについて調査しました。

▼水源地域にあるダム湖（ダム）に行く場合、体験したいと思うもの（問 26）

県にあるダム湖（ダム）に行く場合、体験したいと思うものを複数回答で尋ねたところ、「ダムや周辺施設の見学、水源学習」が47.2%で最も多く、次いで「地元特産品などのグルメ」が46.5%であった。〔図表 8〕

図表 8 水源地域にあるダム湖（ダム）に行く場合、体験したいと思うもの（複数回答）（n=1,409）（%）



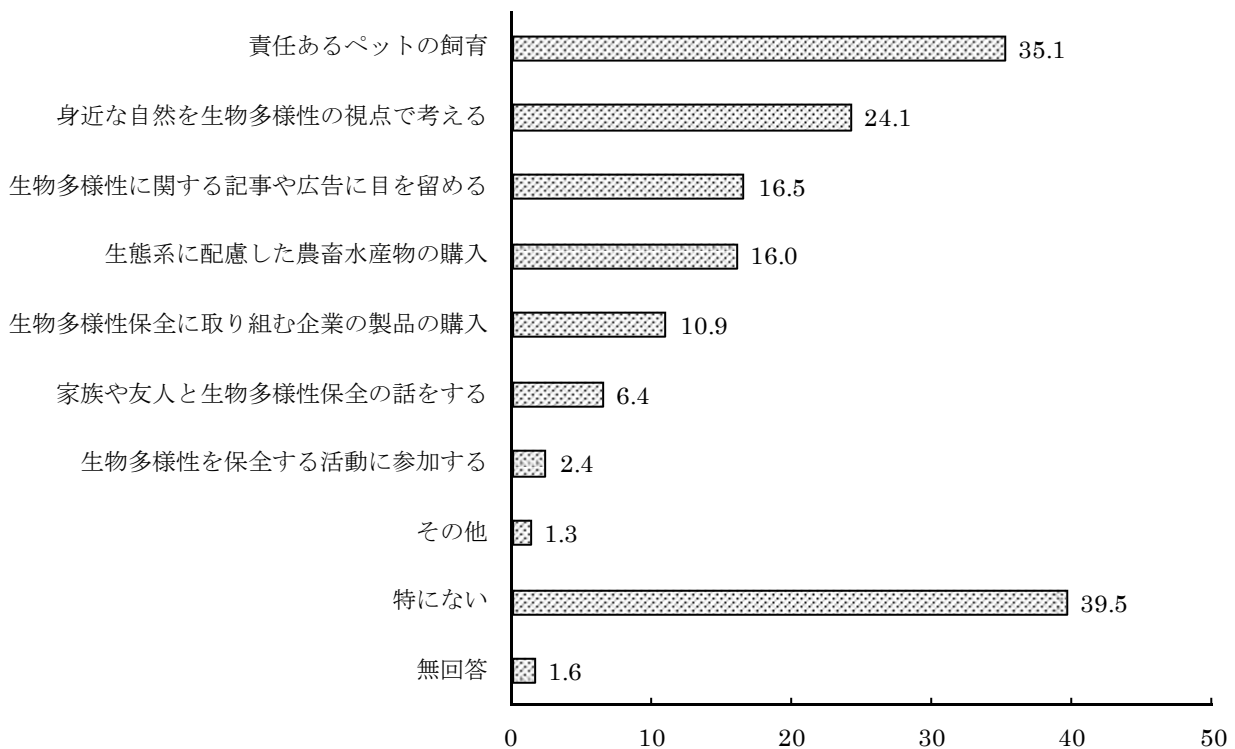
9 生物多様性（問 27～問 29）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることなどについて調査しました。

▼生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（問 28）

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「責任あるペットの飼育」が 35.1%で最も多く、次いで「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が 24.1%であった。[図表 9]

**図表 9 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
（複数回答）（n=1,409）（%）**



10 地震対策の取組み（問 30～問 33）

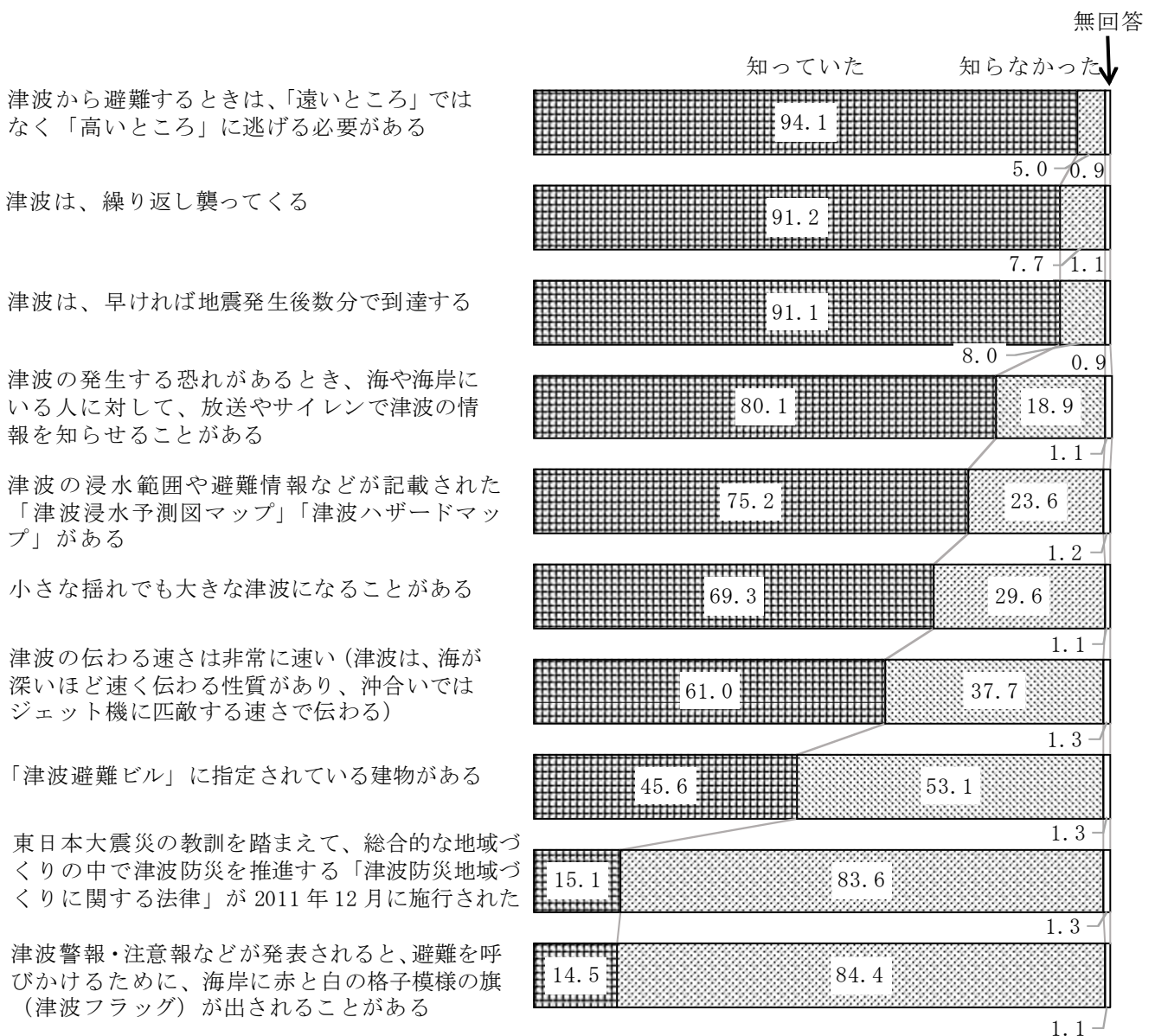
県では、「県民のいのちを守る」ことを最優先としたアクションプランである地震防災戦略を策定するなど、防災・減災対策の取組みを推進しています。今回、「津波」に対する知識や理解などについて調査しました。

▼「津波」に対する知識（問 32）

津波に関する 10 項目を提示して、それぞれ知っていたかどうか尋ねたところ、「知っていた」では、「津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」が 94.1%で最も多かった。

一方、「知らなかった」では、「津波警報・注意報などが発表されると、避難を呼びかけるために、海岸に赤と白の格子模様の旗（津波フラッグ）が出されることがある」が 84.4%で最も多かった。[図表 10]

図表 10 「津波」に対する知識（n=1,409）（%）



11 自転車損害賠償責任保険等の加入（問 34～問 35）

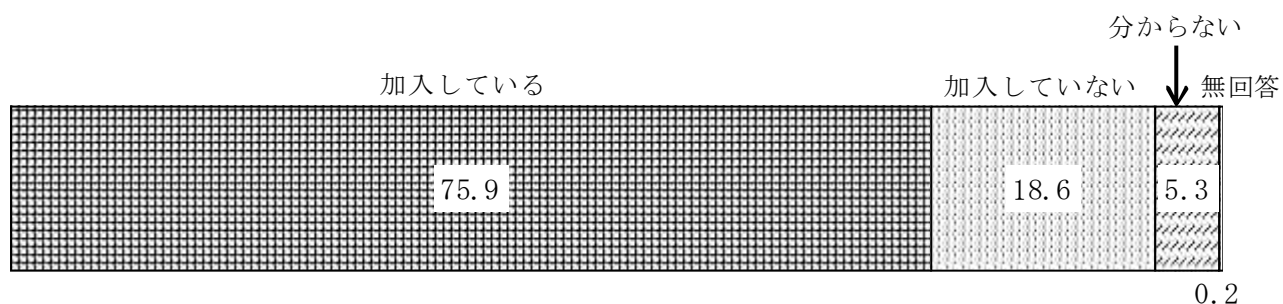
県では、自転車利用者が加害者となる重大事故の発生や全国的に自転車が関係する交通事故で高額な賠償が命じられる判決が出ている状況から、自転車の安全で適正な利用の促進と自転車損害賠償責任保険等の加入義務化を柱とした「神奈川県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を平成31年4月に施行しました。今回、自転車損害賠償責任保険等の加入状況などについて調査しました。

▼自転車損害賠償責任保険等の加入状況（問 34-1）

自転車の利用状況（問 34）で「利用している」と回答した457人に、自転車損害賠償責任保険等に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が75.9%であった。

一方、「加入していない」が18.6%であった。〔図表 11〕

図表 11 自転車損害賠償責任保険等の加入状況（n=457）（%）



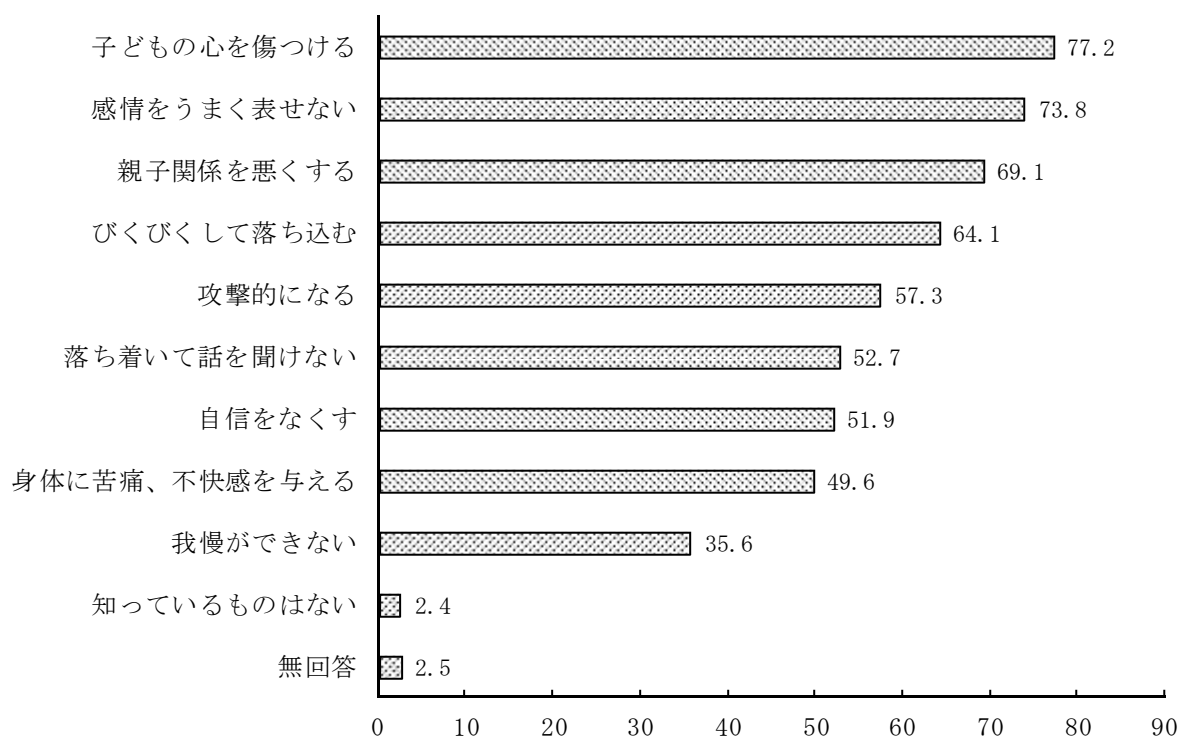
12 子育てにおける体罰の意識（問 36～問 38）

県では、令和元年6月に改正された児童虐待防止法等に盛り込まれた体罰禁止について、様々な方法により普及啓発を行い、子どもから大人まで幅広くこの認識を広げることで、虐待の未然防止に取り組んでいます。今回、体罰などが子どもに与える影響などについて調査しました。

▼体罰などが子どもに与える影響（問 37）

体罰などが子どもに与える影響について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「子どもの心を傷つける」が77.2%で最も多く、次いで「感情をうまく表せない」が73.8%であった。[図表 12]

図表 12 体罰などが子どもに与える影響（複数回答）（n=1,409）（%）



13 青少年を保護する条例の認知度（問 39～問 40）

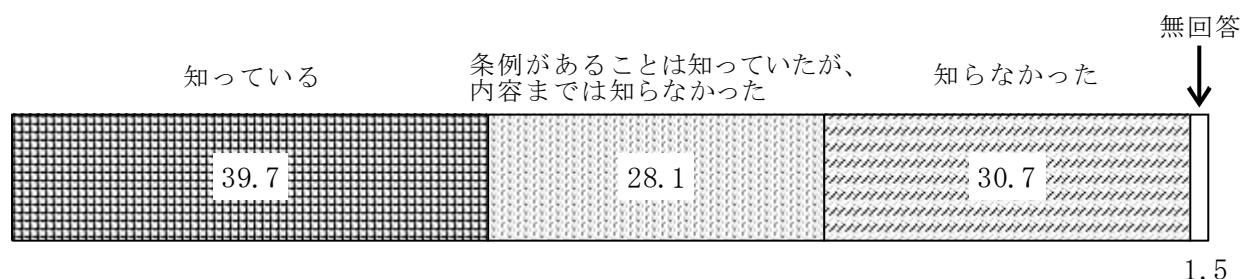
県では、青少年の喫煙及び飲酒を防止する社会環境の整備に向けて「神奈川県青少年喫煙飲酒防止条例」を制定し、青少年（20歳未満の者）の喫煙及び飲酒に関し、県、保護者、事業者及び県民の責務を明らかにするとともに、青少年の喫煙及び飲酒を防止するための社会環境の整備に取り組んでいます。今回、「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度について調査しました。

▼「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度（問 40）

「青少年喫煙飲酒防止条例」の内容を知っているか尋ねたところ、「知っている」が 39.7%であった。また、「条例があることは知っていたが、内容までは知らなかった」が 28.1%であった。

一方、「知らなかった」が 30.7%であった。[図表 13]

図表 13 「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度（n=1,409）（%）



14 地域社会との関わり（問 41）

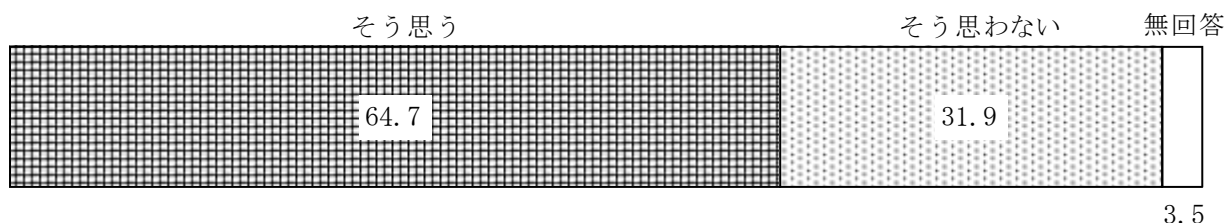
県ではコミュニティ再生・活性化に向けた取組みを進めています。今回、地域社会との関わり方に関する意識などについて調査しました。

▼地域社会との関わり方に関する意識（問 41）

長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が 64.7%であった。

一方、「そう思わない」が 31.9%であった。[図表 14]

図表 14 地域社会との関わり方に関する意識（n=1,409）（%）



15 地域や地域の人々と多様に関わる人々（関係人口）（問 42～問 42-2）

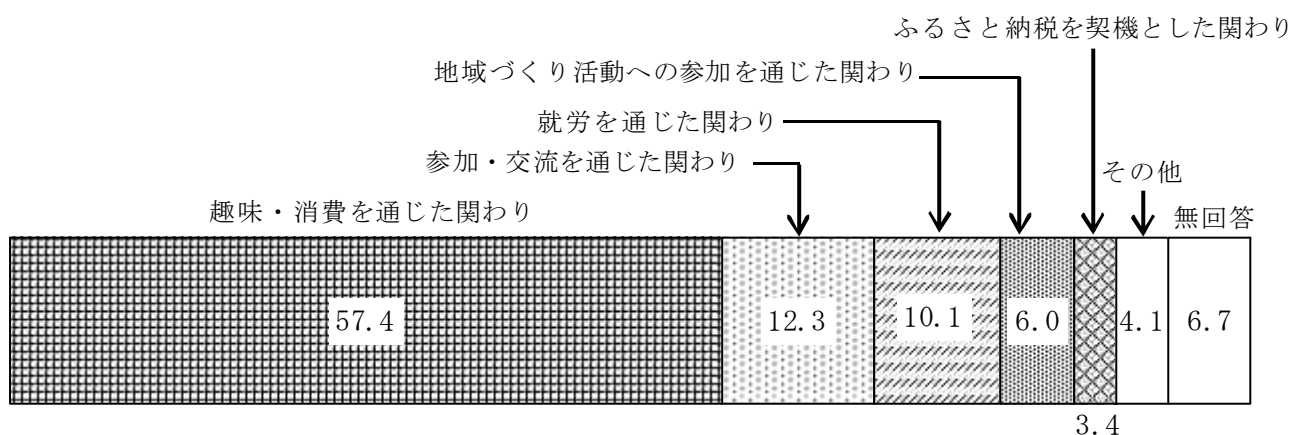
県では、地域や地域の人々と多様にかかわる関係人口※に着目し、将来の移住につなげるため、都心に近く繰り返し訪れやすいという本県の強みを生かし、地域イベントへの参加や地域の人々との交流などを通じた多様な交流機会の創出に取り組んでいます。今回、お住まいの地域以外で、関わりを持ちたいと思うものなどについて調査しました。

※移住した定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない、その中間の、地域や地域の人々と多様に関わる人々

▼お住まいの地域以外で、関わりを持ちたいと思うもの（問 42-1）

継続的に関わりを持ちたいと思う特定の地域の有無（問 42）で「ある」と回答した 465 人に、それはどのような関わりか尋ねたところ、「趣味・消費を通じた関わり」が 57.4%で最も多く、次いで「参加・交流を通じた関わり」が 12.3%であった。[図表 15]

図表 15 お住まいの地域以外で、関わりを持ちたいと思うもの（n=465）（%）



16 テレワーク（リモートワーク）のニーズ（問 43～問 45）

県では、コロナ禍を機にテレワークといった新たな働き方の普及を踏まえ、都心へのアクセスの良さと自然豊かな環境を併せ持つ本県の強みを生かし、テレワークをしながら余暇活動や地域交流を楽しむワーケーションを通じるなどした関係人口の創出、ひいては、移住定住の促進に取り組んでいます。今回、自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に何を望むかなどについて調査しました。

▼自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に望むもの（問 44）

自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に何を望むか尋ねたところ、「近隣の静かさ」（21.3%）が最も多く、次いで「テレワーク可能な図書館などの公共施設の多さ」（11.1%）となった。[図表 16]

図表 16 自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に望むもの

(n=1,409) (%)

